

編集後記

胃癌診断学は、癌であるか否かの質的な面、および癌である場合にはそれがどのような拡がり（浸潤範囲 horizontal spread と深達度 vertical spread）をもっているかの量的な面の決定を含んでいる。本号は前号に続いて癌の拡がりのうち、深達度の判定が主題である。

癌の深達度の判定は、既存の胃癌診断の方法からは、どうしても粘膜側からみた癌の性状から深部の状態を推定するということが主となってしまふ。西沢博士も述べているように、氷山の一角をみて海中にかくれた氷の大きさを推定するのに似ている。氷の例と深達度判定は表面の性状から見えない部分を推定するという点では似ているが、深達度判定は物理系とは異なり完全一様な系ではない生物系であるからなお始末が悪い。

癌の表面の性状から、統計的に癌の大きさから、また五十嵐博士らは癌を動かしてみても、それぞれ深達度判定を試みている。そして、それらの結論を組み合わせて症例を眺めれば、ある程度は深達度を推定し得るようである。しかしながら、その推定の確からしさをさらに増すためには、他の手段によらなければならない。その手段となりうるものに何があるであろうか？

<中村 恭一>

<編集> 早期胃癌研究会